

高等学校国語科用
文部科学省検定済教科書

2 東書 現A301

現代文 A

東京書籍



現代文A



東京書籍

●著作関係者

代表著作者

三角洋一

顧問

池内輝雄

小町谷照彦

石川昌紀

五木寛之

井上秀一

大上正美

小原広行

葛西太郎

兼築信行

嶋中道則

菅本大二

杉浦 晋

杉山欣也

大正大学特命教授
東京大学名誉教授

前国学院大学

東京学芸大学名誉教授

栄光学園中学高等学校
作家

前果鴨中学・高等学校

青山学院大学

果鴨中学・高等学校

開成高等学校

早稲田大学

東京学芸大学

梅花女子大学

埼玉大学

金沢大学

須藤 敬

高松洋司

徳田和夫

永吉寛行

能智憲二

長谷川明久

畠山昌三

林 伸樹

福島公彦

船崎多恵子

山本伸二

山本洋三

吉田 茂

吉原英夫

渡邊義浩

東京書籍株式会社

埼玉学園大学

北海道札幌平岸高等学校

学習院女子大学

神奈川県立大和南高等学校

高槻高等学校

湘南学院高等学校

高槻高等学校

神奈川県立清瀬高等学校

前国文学研究資料館

二松学舎大学

栄光学園中学高等学校

早稲田大学本庄高等学院

北海道教育大学名誉教授

早稲田大学

●表紙：本文・口絵・レイアウト 清水良子

●表紙：目次・扉絵 毛利みき

●挿絵：図版・写真 朝日新聞社／朝日新聞出版／アマナイメーシス／石内都（#43）山根三恵子、#9小川リツ、#69安部初子、#7高瀬一葉、#15乙井包義／岩波書店／NPN／加藤千香子／神奈川近代文学館／河出書房新社／国立国会図書館／シーピーシー・フォト／JTBフォト／新潮社／杉本文／武田真由美／中央公論新社／ディック・ブルーナ・ジャパン／東京文化財研究所／東北大学史料館／日本近代文学館／ネイチャー・プロダクション／PANA通信社／原田維夫／PPS／文藝春秋／毎日新聞社／山口県立萩美術館・浦上記念館／横浜学園（中島敦の会）／読売新聞社

現代文A

平成二十五年三月十五日検定済

2一集書一現A301

平成二十六年一月二十日印刷

平成二十六年二月十日発行

著作者 三角洋一 ほか二十九名（別記）

発行者 東京書籍株式会社

代表者 川畑慈範

印刷者 東京都北区堀船二丁目十七番一号
株式会社リーブルテック

代表者 酒井 隆

発行所 東京都北区堀船二丁目二十三番三十一号
東京書籍株式会社

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
（右記の定価は、各教科書取次供給所に表示します）

電話 本社 広報〇二・五九〇・七二二 編集〇二・五九〇・七二二
供給・販売〇二・五九〇・七二四

支社・出張所 札幌〇二・五九〇・五七二 仙台〇二・五九七・六六六
東京〇二・五九〇・七四六 金沢〇二・五九七・七九八
名古屋〇二・五九二・七二二 大阪〇二・五九七・三三〇
広島〇二・五九六・一五七 福岡〇二・五九七・一五五
那覇〇二・五九六・一八四

本書の解説書・ワークブック並びにこれに類するものの
無断発行を禁ずる。

Copyright © 2014 by Tokyo Shosetsu Co., Ltd., Tokyo
All rights reserved. Printed in Japan



マヤ文明の跡

「『環境史』から考える」

➡ 160 ページ

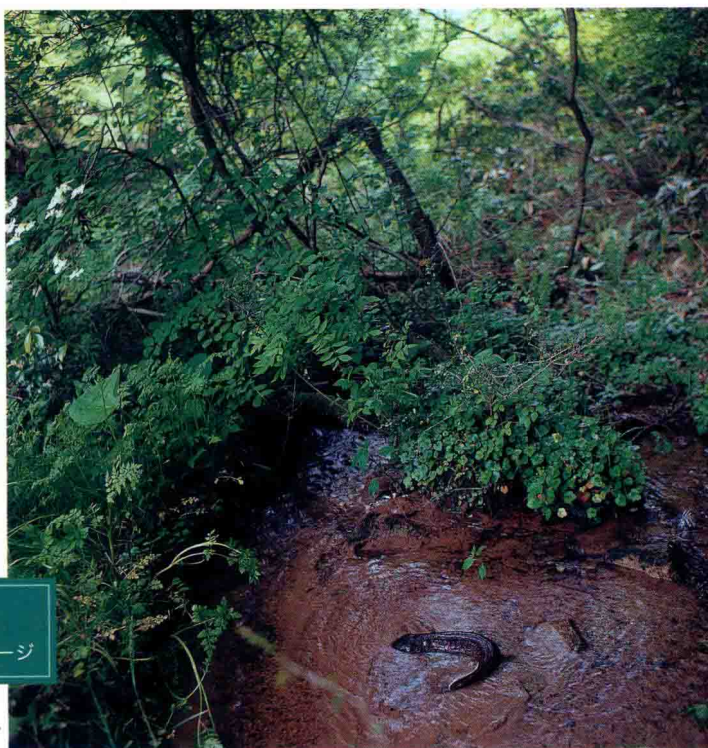




「ナイン」

➡ 21 ページ

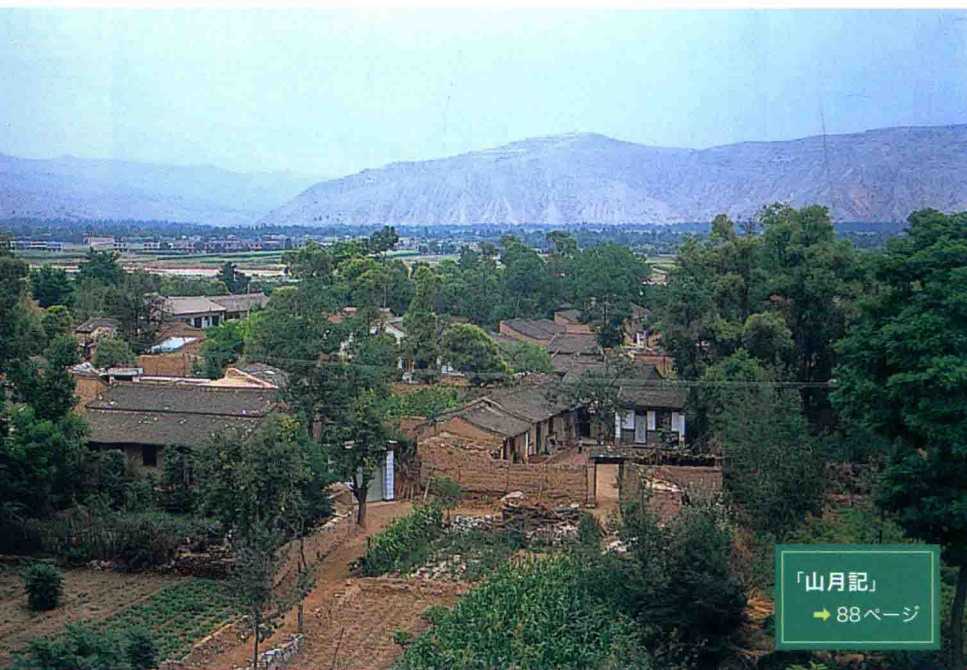
そとぼり
▲外濠公園野球場



さんしょうお
「山椒魚」

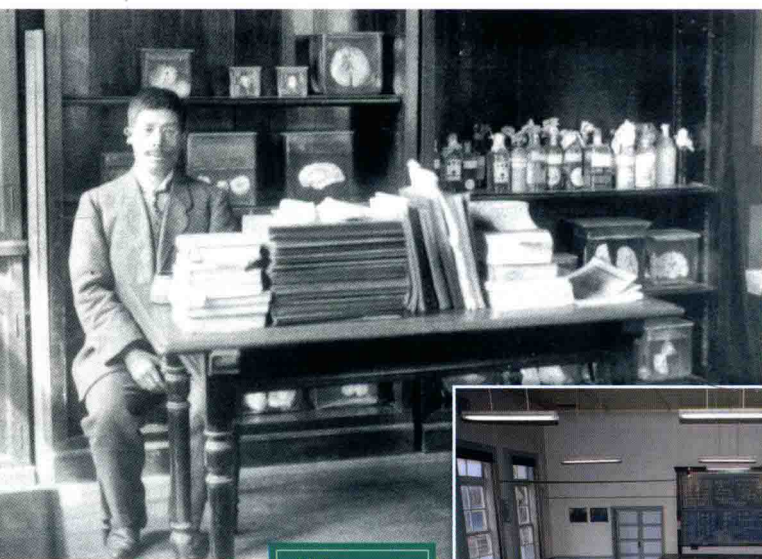
➡ 48 ページ

オオサンショウウオ▶



「山月記」

➔ 88 ページ



ろうせい
▲ 隴西

り ちょう
(李徴の父祖の地)

▲ 藤野先生 (1913 年頃)

ふじの
「藤野先生」

➔ 105 ページ



ろ じん
魯迅が通った階段教室 ▶

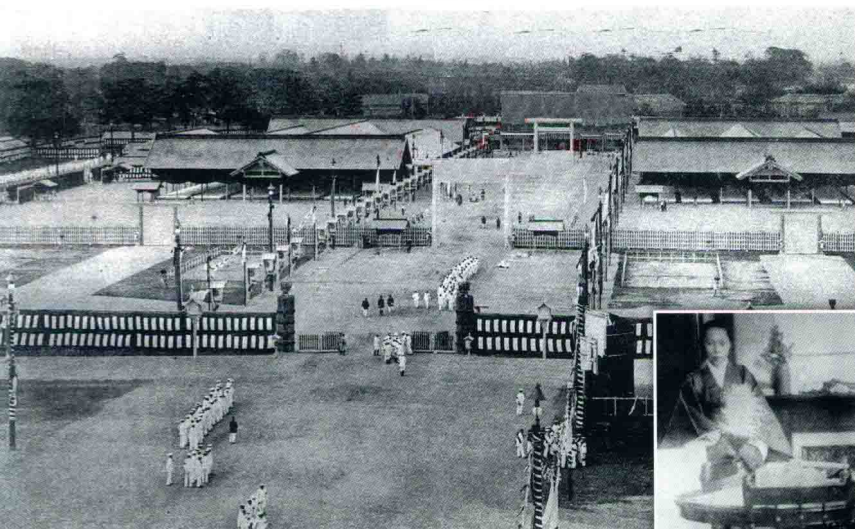


▲明治末の本郷三丁目付近
ほんごう

東京帝国大学正門 (明治30年代) ▶

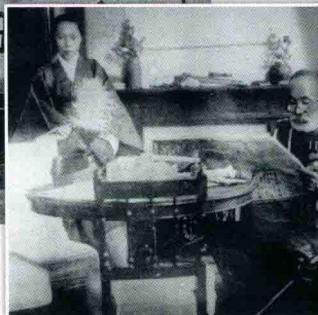
「こころ」

➡ 62 ページ



▲明治天皇の大葬 (大正元年9月13日)

の ぎ まれすけ
乃木希典大将夫妻 (大正元年9月13日) ▶





小説編 ……さまざまな生

現代 ● みどりのゆび

ナイン

カンガル―日和

近代 ● 山椒魚

こころ

山月記

翻訳 ● 藤野先生

随想・評論編 ……今を生きる視点

文学 ● さくらさくらさくら

芸術 ● ミロのヴィーナス

言語 ● 言葉と世界

読書 ● 塩一トンの読書

吉本ばなな

井上ひさし

村上春樹

井伏鱒二

夏目漱石

中島敦

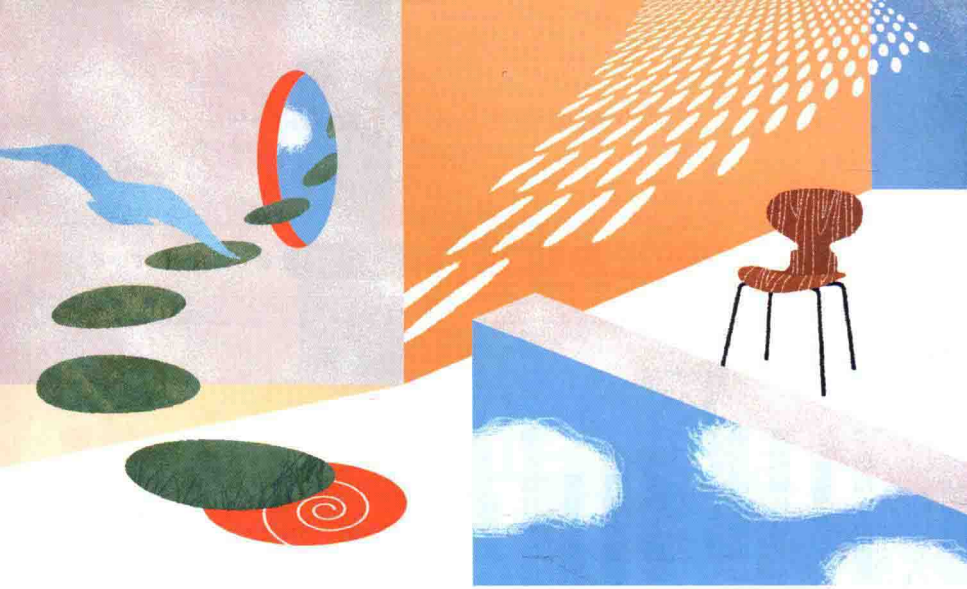
魯迅／竹内好訳

俵万智

清岡卓行

今井むつみ

須賀敦子



附 録

平和 ●	少女たちの「ひろしま」	梯久美子
科学 ●	最初のペンギン	茂木健一郎
近代 ●	清兵衛と瓢箪	志賀直哉
現代 ●	鞆	安部公房

■ 評論文キーワード
■ 常用漢字表

226 220 213 204 196 186

言語活動編

労働 ●	「おのずから」を感じ取る	内山 節
社会 ●	もう一つの知性	姜尚中
環境 ●	「環境史」から考える	石 弘之
1	朗読して味わう	
2	外国文化の影響を調べて発表する	
3	読み比べて考える	
【参考】	現代の敬語表現	

183 178 174 170

160 152 147

現代文 A



東京書籍



小説編 ……さまざまな生

現代 ● みどりのゆび

ナイン

カンガル―日和

近代 ● 山椒魚

こころ

山月記

翻訳 ● 藤野先生

随想・評論編 ……今を生きる視点

文学 ● さくらさくらさくら

芸術 ● ミロのヴィーナス

言語 ● 言葉と世界

読書 ● 塩一トンの読書

吉本ばなな

井上ひさし

村上春樹

井伏鱒二

夏目漱石

中島敦

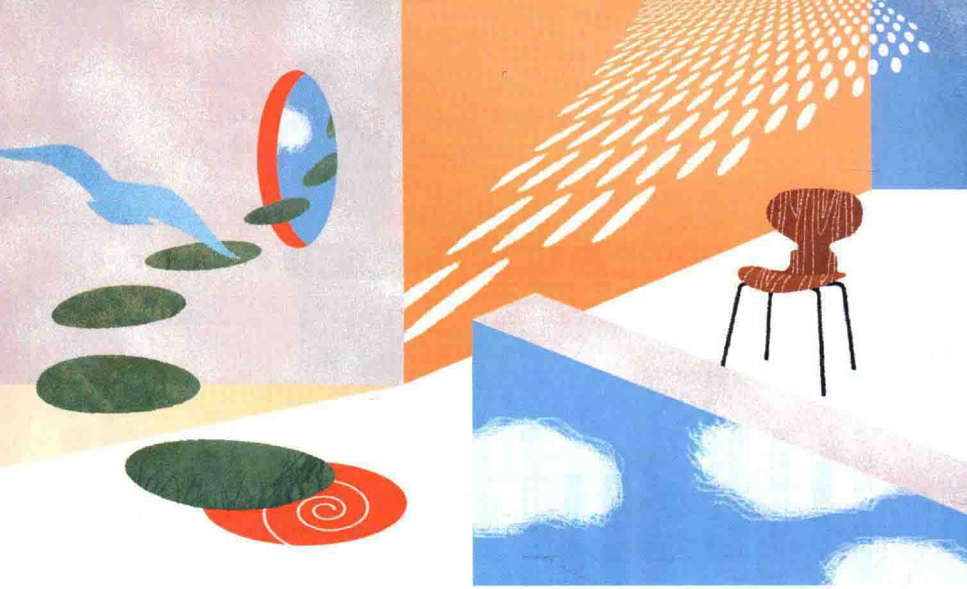
魯迅／竹内好訳

俵万智

清岡卓行

今井むつみ

須賀敦子



附 録

平和 ●	少女たちの「ひろしま」	梯久美子
科学 ●	最初のペンギン	茂木健一郎
近代 ●	清兵衛と瓢箪	志賀直哉
現代 ●	鞆	安部公房

■ 評論文キーワード
■ 常用漢字表

226 220 213 204 196 186

言語活動編

労働 ●	「おのずから」を感じ取る	内山 節
社会 ●	もう一つの知性	姜尚中
環境 ●	「環境史」から考える	石 弘之
1	朗読して味わう	
2	外国文化の影響を調べて発表する	
3	読み比べて考える	
【参考】	現代の敬語表現	

183 178 174 170

160 152 147

❖ この教科書で学習するために ❖

この教科書は、**小説編** **随想・評論編** **言語活動編** とで構成されている。

■ **単元扉** 各単元で学習する主な目標を示した。

■ 各教材の注欄には、次のものを示した。

注

① ② …の番号を付して、主として固有名詞・難解な語句について解説した。

発問

教材を理解する手がかりとなる問いを①印で示し、関連する本文の箇所には●印を付した。

注意すべき語句

▼印を付して、慣用的な表現を中心に知っておきたい語句を示した。

漢字

本文に出る漢字を取り出して、次の記号を付して、関連する漢字とともに示した。

対…対義語（例 陰気**対**陽気）

類…類義語（例 能弁**類**雄弁）

注…字形や使い分けに注意すべき語（例 幼い**注** 幼い**注**）

読…読みに注意すべき語（例 慌てる**読** 恐慌）

■ 各教材末には、次の項目を設けた。

学習の手引き

導入↓読解↓まとめの順に、その教材を的確に理解するための設問を示した。

表現と言語活動

読解したことを、表現したり言語活動につなげたりする設問を示した。

漢字と語彙

漢字の使い方を身につけ、語彙を豊かにするために、間違いやすい漢字、紛らわしい漢字などについての練習問題を示した。

■ 言語活動編は、「学習のねらい」「学習のポイント」「課題」「評価のポイント」の各項目から構成した。

■ 附録には、小説と随想・評論からそれぞれ二教材を配し、多様な学習に対応できるようにした。また、

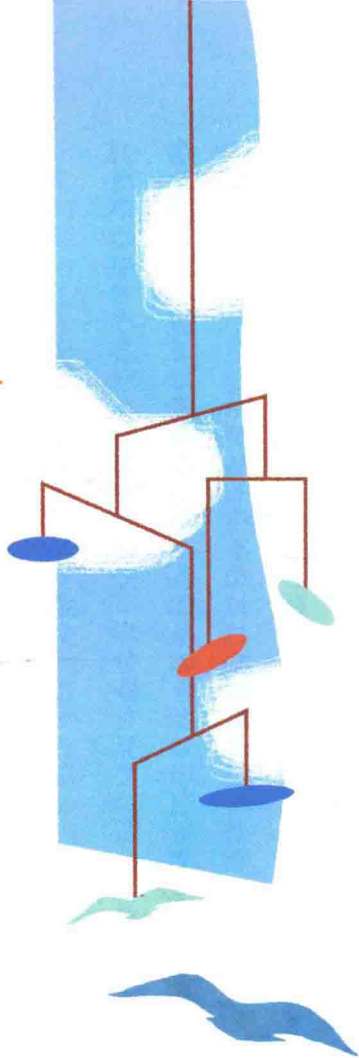
「読書案内」のページを設け、教材をきつかけとして読書に親しめるようにした。

■ 引用した箇所を示す場合、「」内に、ページを漢数字で、行を算用数字で示した。（例）〔二三・四〕

- 表現や展開を的確に読み取り、それぞれの主題を理解する。
- 多様な小説世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を養う。

さまざまな生

小説編



みどりのゆび

吉本よしもとばなな

電車の中でうとうととしていたので、半分夢を見ているような感じだった。駅の名を聞いて、慌てて降りた。ホームは冬のきびしい空気ではりつめた感じがしていた。マフラーをしつかりと巻きなおして改札を出た。

タクシーに乗って宿に行つてほしい、と告げたら、運転手さんは場所がわからないと言った。新しい小さな宿だしあまり宣伝もしてないみたいなお様子だったのを思い出し、だいたいの住所で降ろしてもらうことにした。

まわりは畑ばかりで、遠くになだらかな山が見えた。宿を示す小さな看板を見つけて、私はその指示にしたがつて、細い坂道を登つて行つた。

寒さにも慣れてきて、きれいな空気を嬉しく思った。次第に目が覚めてきて、うつすらと汗すらかいていたその時、私は前方に知っている誰かの気配を感じた。

「誰か」とは、結局、誰のことを指していたのか。

家の前の道路にアロエ^①がはみだして困ったね、という話題が出たのは、去年の冬のことだった。

父も母も私も、妹が三百円で買ってきて庭に植えるところがないからと玄關脇に植えたアロエのことなど、すっかり忘れていた。雑誌か何かの影響を受けて、アロエは万能だ！ だから飲む、とかにきびに貼る、とかしきりに言っていた妹もすぐにそのアロエ熱から覚めて、世話すらしなくなった。しかし、水もろくにやらず、陽^ひ当たりもさほどよくなかったのに、アロエは育っていった。育ちすぎて、気づいたら木のようになり、道に大きくはみだし、さらに気色悪い形をした真つ赤な花まで咲かせていた。

その時のことをよく覚えている。生まれ育った家の小さなテーブルを父と妹と私は囲んでいた。いつもの夕方がはじまろうとしていた。

私と妹が幼い頃、うちではみんなそこでいろいろなことをした。ごはんを食べたり、けんかをしたり、^{テレビ}TVを見たり、妹とお金を出し合ってケーキを買ってきて食べたりした。デパートの袋に入った母の下着と、

15

10



5

①アロエ ユリ科アロエ属の常緑多年草。葉は厚く、剣状で縁にとげがある。

しきりに

…すら… (で)ない

慌てる^読恐慌

困る^読困惑

幼い^注注幻